

プラスプラスプロジェクト vol.6

都市と呼吸

City and Breath

今村遼佑・山根明季子

IMAMURA Ryosuke, YAMANE Akiko

2026年10月14日(水) - 10月31日(土)

pm 12-7 休廊：日・月・火 曜

今村遼佑、山根明季子による2人展、「都市と呼吸」を開催します。

+1artでは、2023年より「プラスプラス*プロジェクト」をスタートしました。これは、音を素材としたり、音をイメージした作品を制作する若手作家を支援するシリーズ企画です。想定外の事態に揺れるこの激動の時代にあって、表現行為はさらに多様になり、これからも想定外の作品が次々と生まれていく予感がします。本プロジェクトは、ギャラリー空間がその起点となることを期待するものです。

プラスプラス*プロジェクト第6回となる本展では、作曲家と美術家によるコラボレーションをご覧ください。

美術家・今村遼佑は、インスタレーション、立体、映像、絵画など多様な表現を通して、日常の出来事や記憶を作品にしてきました。

作曲家・山根明季子は、身体感覚と環境や制度との摩擦を、作曲や視覚的表現を通して発表してきました。

本展では、異なるジャンルを背景とする2人の作家がそれぞれのアプローチから、音を素材としたサウンドインスタレーションを展開します。さらに、ドローイングやテキストスコアなどの視覚的な要素が加わり、空間が構成されます。

この空間で、それぞれの音の表現は、私たちの身体にどのように響き重なるのでしょうか。刻々と連なる時空間を是非体感してください。

+1art

(*「プラスプラス [plas, plas!」は拍手音を表す スペイン語のオノマトペ。)

| 会期中イベント |

アーティストトーク(今村遼佑、山根明季子)

10/17(土) pm5~

*当日の作品鑑賞はpm5時までとなります

| 展示作品 |

●今村遼佑

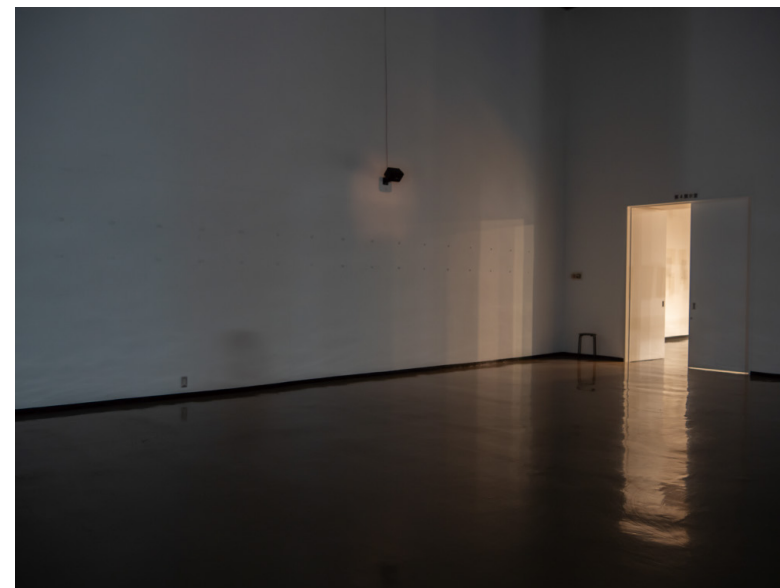
サウンドインスタレーション / スピーカー サイズ可変

ドローイング / 紙に鉛筆

●山根明季子

サウンドインスタレーション / サーキュレーター サイズ可変

スコア / 紙 A5サイズ程度



《調律、夜》今村遼佑

サウンドインスタレーション サイズ可変 2023

今
村
遼
佑

IMAMURA Ryosuke



遠くの音、近くの音、足元の音。体の中の音。視覚と違って、音は後ろからでも、上からでも、こちらの意識を越えて、どこからでも聞こえてくる。だから、部屋の中にも、街を歩いている、あちこちから音が聞こえると「世界に存在している」って気がとてもする。そしてそれは、心地よかったり、哀しかったり、時に不安にさせたり、いろんな感情を伴いながら、世界に存在することの不思議を教えてくれる気がする。

(今村遼佑)

1982年京都生まれ。2007年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。

日々過ごすなかでの記憶やふとした気づきを元に、ものごとの確かさと不確かさのあわいを探求するような作品を手がける。インスタレーション、立体、映像、絵画など表現方法は主題に合わせて多岐にわたる。

近年の展覧会に、個展「残響と余白のなかで」(岐阜現代美術館大地館、2026)、「今村遼佑×光島貴之 感覚をめぐるリサーチ・プロジェクト〈感覚の点P〉展」(東京都渋谷公園通りギャラリー、2025)などがある。



《調律、朝》今村遼佑
サウンドインスタレーション サイズ可変 2026

山根明季子

YAMANE Akiko



いつも電気のドローン(持続)音に取り囲まれている。加速成長を促進して支えてきた電気の音。スーパーの冷蔵庫から発せられる持続音はいつでも安定して大量の食品が並んでいる状態を維持していて、日本で私はグローバルな資本主義の下で帝國的な豊かさを受け取っている。家庭内やインフラを支え家事やケアと結びつく電化製品、不可視化された再生産労働の音。

(山根明季子)

1982年大阪生まれ。2007年京都市立芸術大学大学院作曲専攻修了。

消費、性、可愛いといった身体感覚と環境や制度との摩擦を扱い制作をしてきた。五線記譜からテキストスコアを用いた作曲制作、空間制作まで横断的に活動。リサイタル&インスタレーション「BGM」(2026)、アルバム「furniture music in pixel field」(2026)、両国アートフェスティバル「二次創作」芸術監督(2024)、塩見允枝子「performances & visual works 神戸」企画(2021)など。



《スーパーマーケットの冷蔵庫 #1》山根明季子
サウンドインスタレーション サイズ可変 2025



《サーキュレーター》山根明季子
サウンドインスタレーション サイズ可変 2026